危機管理連絡会議

日時：平成 30 年 7 月 18 日（水）15:00 ～
場所：県庁 4 階 405 会議室

協議事項

- マダニによる重症熱性血小板減少症候群（ＳＦＴＳ）等の感染予防について
- 熱中症予防の普及啓発・注意喚起について

資料提供			
月日（曜日）	担当課	電話番号	担当者
7月１７日（火）	健康増進課 感染症・疾病対策室	088-621-2227	柴原・金沢

マダニによる重症熱性血小板減少症候群（SFTS)等の感染予防について

県内において、今年に入り初めての重症熱性血小板減少症候群（SFTS)の発生が確認されました。

※ これまでの状況（H25.6.1 以降）
全国　(H30.６.２７現在)：３５４人の感染が確認（うち６２人が死亡）
本県　(H30.７.１７現在)：　２５人の感染が確認（うち７人が死亡）

「重症熱性血小板減少症候群」は、SFTS ウイルスを保有するマダニに刺咬されることで感染するとされております。マダニは、春から秋にかけて活動期であり、野外でのマダニ予防対策が引き続き重要ですので、改めて県民に対して広く注意喚起をするものです。
なお、徳島県では、県ホームページに掲載する等予防啓発に努め、関係機関や市町村に対して、マダニによる感染予防を呼びかけるリーフレットを作成し配布しています。

【今回の SFTS 患者の発生状況】
1　患　者：県内在住の８０歳代の男性
2　主な症状等：発熱、血小板減少・白血球減少等
3　感染原因：山に入りマダニに刺されたと推定される。
4　経過等：
平成３０年７月中旬より、食欲不振、発熱等があり、医療機関を受診。
医療機関から保健所に検査依頼があり、徳島県立保健製薬環境センターでの確定検査により SFTS ウイルスに感染していたことが確認され、感染症法に基づく患者発生届があった。現在、入院治療中。

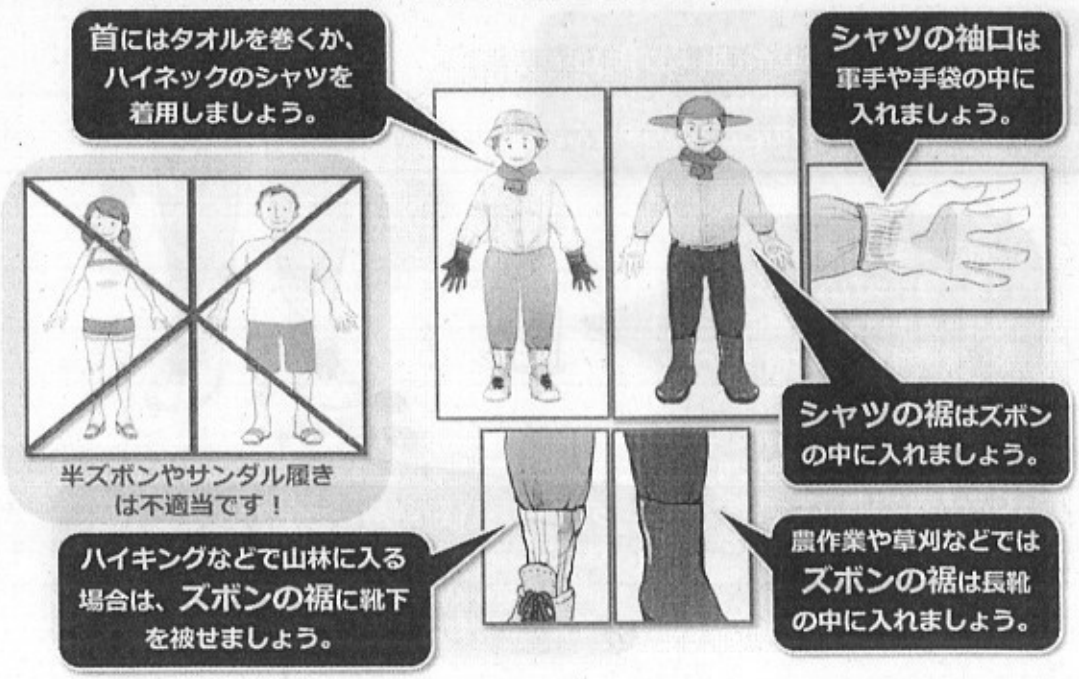
【予防方法】
マダニに咬まれないことが重要です。
1　草むらや山など、マダニが生息する場所に入る際は、長袖・長ズボン、手袋、首にタオルを巻くなど肌の露出を避けましょう。
2　屋外活動後は入浴し、マダニが付着していないか確認しましょう。
3　マダニに咬まれた場合は、無理に引き抜こうとせず、医療機関で処置してもらってください。
4　マダニに咬まれた後に発熱等の症状があった場合は、直ちに医療機関を受診しましょう。
※なお、マダニ刺咬は日本紅斑熱など複数の感染症を引き起こします。春から秋にかけてマダニに咬まれないように注意してください。
※別紙、「マダニが媒介する新しい感染症 SFTS(重症熱性血小板減少症候群)
早期発見、早期治療が大切！！」を参考にしてください。

【当感染症発生時の発表取扱い】
SFTS については、感染症法上第 4 類に分類されており、通常は県感染症情報センターで届出数等の公表を行うが、今回は県民への注意喚起等の感染対策上の必要性から特に個別発表を行うものである。
※　患者等の人権の尊重には、特段のご配慮をお願いします。

1. マダニの生息場所

2. マダニから身を守る服装

野外では、腕・足・首など、肌の露出を少なくしましょう！



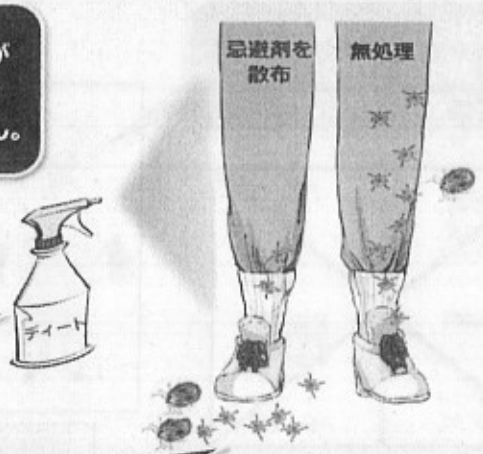
3. マダニから身を守る方法

ダニ類の多くは、長時間（10日間以上のこともある）吸血します。吸血中のマダニを無理に取り除こうとすると、マダニの口器が皮膚の中に残り化膿することがあるので、皮膚科等の医療機関で、適切な処置（マダニの除去や消毒など）を受けて下さい。

マダニに咬まれたら、数週間程度は体調の変化に注意し、発熱等の症状が認められた場合は、医療機関で診察を受けて下さい。

4. 忌避剤の効果

海外ではマダニ対策に忌避剤(虫よけ剤)が使用されていますが、日本には、マダニ用に市販されている忌避剤は今のところありません。



日本では、ツツガムシ（ダニ目ツツガムシ科）を忌避する用途で、衣服に塗布して使用する忌避剤（医薬品）が複数市販されています。

このような忌避剤を使用し、マダニに対して一定の忌避効果が得られることが確認されました。

ディート（忌避剤）の使用でマダニ付着数は減少しますが、マダニを完全に防ぐわけではありません。忌避剤を過信せず、様々な防護手段と組み合わせて対策を取ってください。

出典：国立感染症研究所ホームページ
http://www.nih.go.jp/niid/ja/sfts/2287-ent/3964-madanitaisaku.html

マダニが媒介する新しい感染症

SFTS（重症熱性血小板減少症候群）

早期発見、早期治療が大切！！

タカサゴキララマダニ

問1：SFTSってどんな病気？

2011年に初めて特定されたSFTSウイルスに感染する事によってひき起こされる病気で、6日～2週間の潜伏期を経て、発熱、消化器症状（食欲低下、嘔気、嘔吐、下痢、腹痛）をひき起こします。重症化すれば、死亡することもあります。

問2：どのように感染するの？

SFTSウイルスを保有しているマダニに刺咬されることにより感染します。
マダニの中でも、病原体を保有しているマダニは極めてまれですが、発症すると重症化するので十分気をつけましょう。この病気を媒介するマダニは、家ダニなどとは違う種類で、10mmほどの野山に生息しているマダニです。

問3：どのように予防すればいいの？

マダニに刺咬されないことが重要です。草むらや山など、ダニが生息する場所に行く場合には、長袖・長ズボン・長靴、手袋、首にタオルを巻くなど、肌の露出をできるだけ少なくすることが大切です。虫除けスプレーも一定の忌避効果が得られます。ペットなどの身近な動物にも気をつけましょう。
屋外活動後は入浴し、マダニが付着していないか注意深く全身チェックしましょう。

問4：もしマダニに刺されたらどうしたらいいの？

マダニ類の多くは、皮膚にしっかりと口器を突き刺し、数日間吸血します。無理に引き抜こうとすると、口器の一部が皮内に残ってしまうことがあるので、医療機関で処置してもらってください。刺咬された後1～2週間は、発熱、嘔気、下痢などに注意し、症状があれば直ちに医療機関を受診してください。
朝夕に体温を測り、裏面の体温表に記入し、熱が出たら直ぐに医療機関へ。

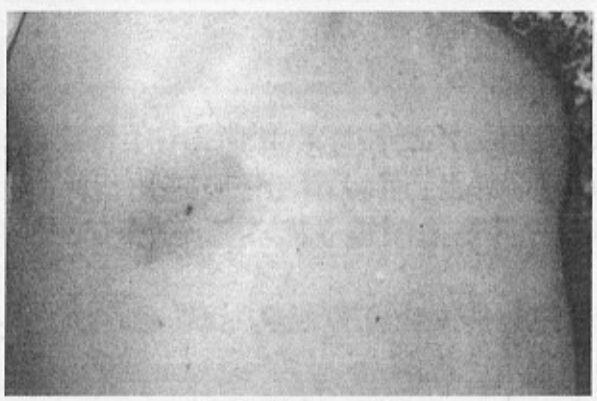
徳島県医学・感染症専門員　馬原　文彦先生監修

徳島県保健福祉部健康増進課感染症・疾病対策室

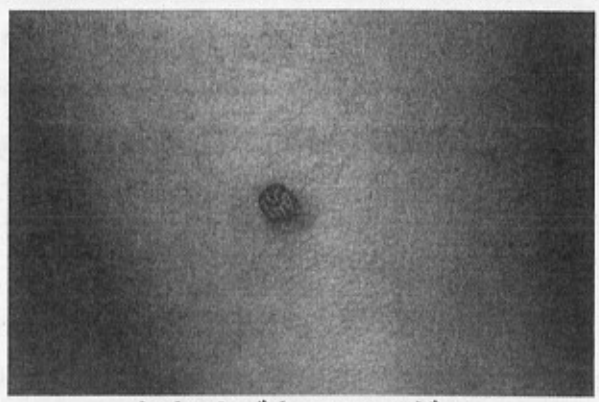
ダニに刺されたら1週間くらい朝夕に熱を測りましょう

姓名															
											体重	kg			
ダニに刺された															
月　日	第	日	第	日	第	日	第	日	第	日	第	日	第	日	
	朝	夕	朝	夕	朝	夕	朝	夕	朝	夕	朝	夕	朝	夕	
体温															
40															
39															
38															
37															
36															
35															

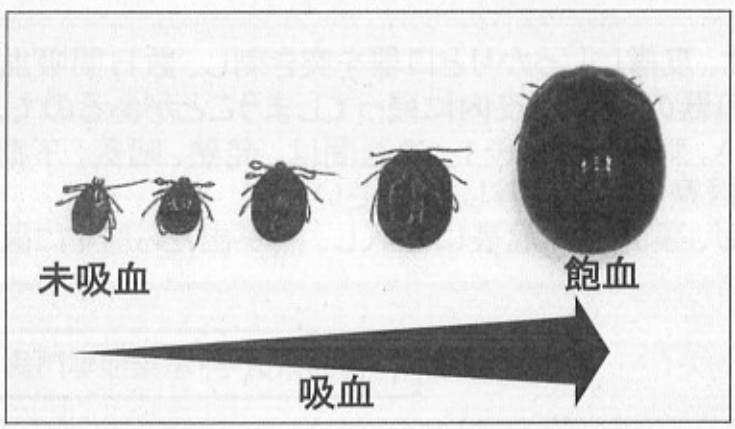
ヒトを刺咬しているマダニ



フタトゲチマダニ



タカサゴキララマダニ



吸血すると3～15ミリ位に膨れる

（写真提供：馬原アカリ医学研究所）

健第５２５号
平成３０年７月１８日

各 所 属 長 殿

保健福祉部健康増進課長

熱中症予防の普及啓発・注意喚起について（依頼）

７月に入り、真夏日・猛暑日となる日が増えており、県内でも熱中症による搬送者の増加が報告されています。

県では、ホームページや厚生労働省、環境省が作成した啓発物等を活用し、熱中症予防を広く県民に呼びかけているところですが、今後ますます気温が高い日が続くことが予想されていることから、県民一人一人に対して、更なる熱中症予防の普及啓発・注意喚起が必要です。

貴所属におかれましては、日頃より熱中症予防に留意していただいておりますが、改めて熱中症予防対策の徹底が図られますよう、職員及び県民、関係者に対し、こまめな水分・塩分の補給、扇風機やエアコンの利用等の熱中症の予防法について、改めて周知をお願いいたします。

なお、所管する関係団体に対しても、別添を参考に周知をお願いいたします。

特に、熱中症の注意が必要な高齢者、小児、障がい児（者）に対する注意喚起についてご配慮いただきますとともに、周囲の方々が協力して注意深く見守る等、重点的な呼びかけをお願いいたします。

○情報提供サイト

「環境省熱中症予防情報サイト」　　http://www.wbgt.env.go.jp/

暑さ指数（WBGT）などの情報や啓発資料等が掲載されていますので、ご利用ください。

（担当）
保健福祉部健康増進課母子・歯科口腔担当
電　話　088-621-2736
ﾌｧｸｼﾐﾘ　088-621-2841
メール　kenkouzoushinka@pref.tokushima.lg.jp

健第５２４号
平成３０年７月１８日

関係機関・団体の長　　殿

徳島県保健福祉部健康増進課長

熱中症予防の普及啓発・注意喚起について（依頼）

日頃より、本県の保健福祉行政の推進につきまして御協力を賜り厚くお礼申し上げます。

７月に入り、真夏日・猛暑日となる日が増えており、県内でも熱中症による搬送者の増加が報告されています。

県では、ホームページや厚生労働省、環境省が作成した啓発物等を活用し、熱中症予防を広く県民に呼びかけているところですが、今後ますます気温が高い日が続くことが予想されていることから、県民一人一人に対して、更なる熱中症予防の普及啓発・注意喚起が必要です。

つきましては、貴所属職員及び県民等に対し、改めて熱中症予防対策の徹底が図られますよう、こまめな水分・塩分の補給、扇風機やエアコンの利用等の熱中症の予防法について、周知をお願いいたします。

特に、熱中症の注意が必要な高齢者、小児、障がい児（者）に対する注意喚起についてご配慮いただきますとともに、周囲の方々が協力して注意深く見守る等、重点的な呼びかけをお願いいたします。

○情報提供サイト

「環境省熱中症予防情報サイト」　　http://www.wbgt.env.go.jp/

暑さ指数（WBGT）などの情報や啓発資料等が掲載されていますので、ご利用ください。

（担当）
徳島県保健福祉部健康増進課
母子・歯科口腔担当
電　話　088-621-2736
ﾌｧｸｼﾐﾘ　088-621-2841
メール　kenkouzoushinka@pref.tokushima.lg.jp

熱中症予防のために

暑さを避ける

室内では・・・

- 扇風機やエアコンで温度を調節
- 遮光カーテン、すだれ、打ち水を利用
- 室温をこまめに確認
- WBGT値※も参考に

外出時には・・・

- 日傘や帽子の着用
- 日陰の利用、こまめな休憩
- 天気のよい日は、日中の外出をできるだけ控える

からだの蓄熱を避けるために

- 通気性のよい、吸湿性・速乾性のある衣服を着用する
- 保冷剤、氷、冷たいタオルなどで、からだを冷やす

※WBGT値：気温、湿度、輻射（放射）熱から算出される暑さの指数
運動や作業の度合いに応じた基準値が定められています。
環境省のホームページ（熱中症予防情報サイト）に、観測値と予想値が掲載されています。

こまめに水分を補給する

室内でも、外出時でも、のどの渇きを感じなくても、
こまめに水分・塩分、経口補水液※などを補給する

※ 水に食塩とブドウ糖を溶かしたもの

「熱中症」は、高温多湿な環境に長くいることで、徐々に体内の水分や塩分のバランスが崩れ、体温調節機能がうまく働かなくなり、体内に熱がこもった状態を指します。屋外だけでなく室内で何もしていないときでも発症し、救急搬送されたり、場合によっては死亡することもあります。

熱中症について正しい知識を身につけ、体調の変化に気をつけるとともに、周囲にも気を配り、熱中症による健康被害を防ぎましょう。

熱中症の症状

○めまい、立ちくらみ、手足のしびれ、筋肉のこむら返り、気分が悪い
○頭痛、吐き気、嘔吐、倦怠感、虚脱感、いつもと様子が違う
重症になると、
○返事がおかしい、意識消失、けいれん、からだが熱い

詳しくは、厚生労働省ホームページ「熱中症関連情報」をご覧ください。

厚生労働省　熱中症　検索

厚生労働省

熱中症が疑われる人を見かけたら

涼しい場所へ

エアコンが効いている室内や風通しのよい日陰など、涼しい場所へ避難させる

からだを冷やす

衣服をゆるめ、からだを冷やす

（特に、首の回り、脇の下、足の付け根など）

水分補給

水分・塩分、経口補水液※などを補給する

※ 水に食塩とブドウ糖を溶かしたもの

自力で水が飲めない、意識がない場合は、すぐに救急車を呼びましょう！

<ご注意>

暑さの感じ方は、人によって異なります

その日の体調や暑さに対する慣れなどが影響します。体調の変化に気をつけましょう。

高齢者や子ども、障害者・障害児は、特に注意が必要です

- 熱中症患者のおよそ半数は65歳以上の高齢者です。高齢者は暑さや水分不足に対する感覚機能が低下しており、暑さに対するからだの調整機能も低下しているので、注意が必要です。
- 子どもは体温の調節能力がまだ十分に発達していないので、気を配る必要があります。
- のどの渇きを感じていなくても、こまめに水分補給しましょう。暑さを感じなくても室温や外気温を測定し、扇風機やエアコンを使って温度調整するよう心がけましょう。

節電を意識するあまり、熱中症予防を忘れないようご注意ください

気温や湿度の高い日には、無理な節電はせず、適度に扇風機やエアコンを使いましょう。

熱中症についての情報はこちら

▷ **厚生労働省**

熱中症関連情報［施策紹介、熱中症予防リーフレット、熱中症診療ガイドラインなど］
http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryou/kenkou/nettyuu/

「健康のため水を飲もう」推進運動
http://www.mhlw.go.jp/topics/bukyoku/kenkou/suido/nomou/

STOP！熱中症　クールワークキャンペーン［職場における熱中症予防対策］
http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000116133.html

▷ **環境省**

熱中症予防情報［暑さ指数（WBGT）予報、熱中症環境保健マニュアル、熱中症予防リーフレットなど］
http://www.wbgt.env.go.jp/

▷ **気象庁**

熱中症から身を守るために［気温の予測情報、天気予報など］
http://www.jma.go.jp/jma/kishou/know/kurashi/netsu.html

異常天候早期警戒情報
http://www.jma.go.jp/jp/soukei/

▷ **消防庁**

熱中症情報［熱中症による救急搬送の状況など］
http://www.fdma.go.jp/neuter/topics/fieldList9_2.html

高齢者の注意点

- のどがかわかなくても水分補給
- 部屋の温湿度をこまめに測る

○高齢者は温湿度に対する感覚が弱くなるために、室内でも熱中症になることがあります。
○室内に温湿度計を置き、こまめに水分を補給することを心掛けましょう。

幼児は特に注意

○晴れた日は、地面に近いほど気温が高くなるため、車いすの方、幼児、ペットは大人以上に暑い環境にいます。
○幼児は体温調節機能が十分発達していないため、頸椎損傷者は体温調節機能が十分に発揮できないため、特に注意が必要です。

◆ 環境省　熱中症予防情報サイト
http://www.wbgt.env.go.jp/
◆ 熱中症環境保健マニュアル
http://www.wbgt.env.go.jp/heatillness_manual.php
◆ 夏季のイベントにおける熱中症対策ガイドライン
http://www.wbgt.env.go.jp/heatillness_gline.php
◆ 熱中症による救急搬送人員数（消防庁）
http://www.fdma.go.jp/neuter/topics/fieldList9_2.html

◆ スマートフォン版　環境省　熱中症予防情報サイト
http://www.wbgt.env.go.jp/sp
◆ 携帯サイト版　環境省　熱中症予防情報サイト
http://www.wbgt.env.go.jp/kt

環境省環境保健部 環境安全課
〒100-8975 東京都千代田区霞が関 1-2-2 中央合同庁舎５号館
TEL:03-3581-3351（代表）

リサイクル適性Ⓐ
この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。

熱中症～ご存じですか？予防・対処法～

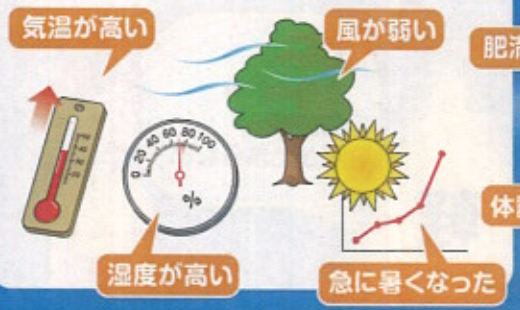
こんな症状があったら熱中症を疑いましょう！

環境省

熱中症は予防が大切です

熱中症は気温などの環境条件だけではなく、人間の体調や暑さに対する慣れなどが影響して起こります。気温がそれほど高くない日でも、湿度が高い・風が弱い日や、体が暑さに慣れていない時は注意が必要です。

こんな日は熱中症に注意



こんな人は特に注意

熱中症の予防法

＊急に暑くなった日や活動の初日などは特に注意

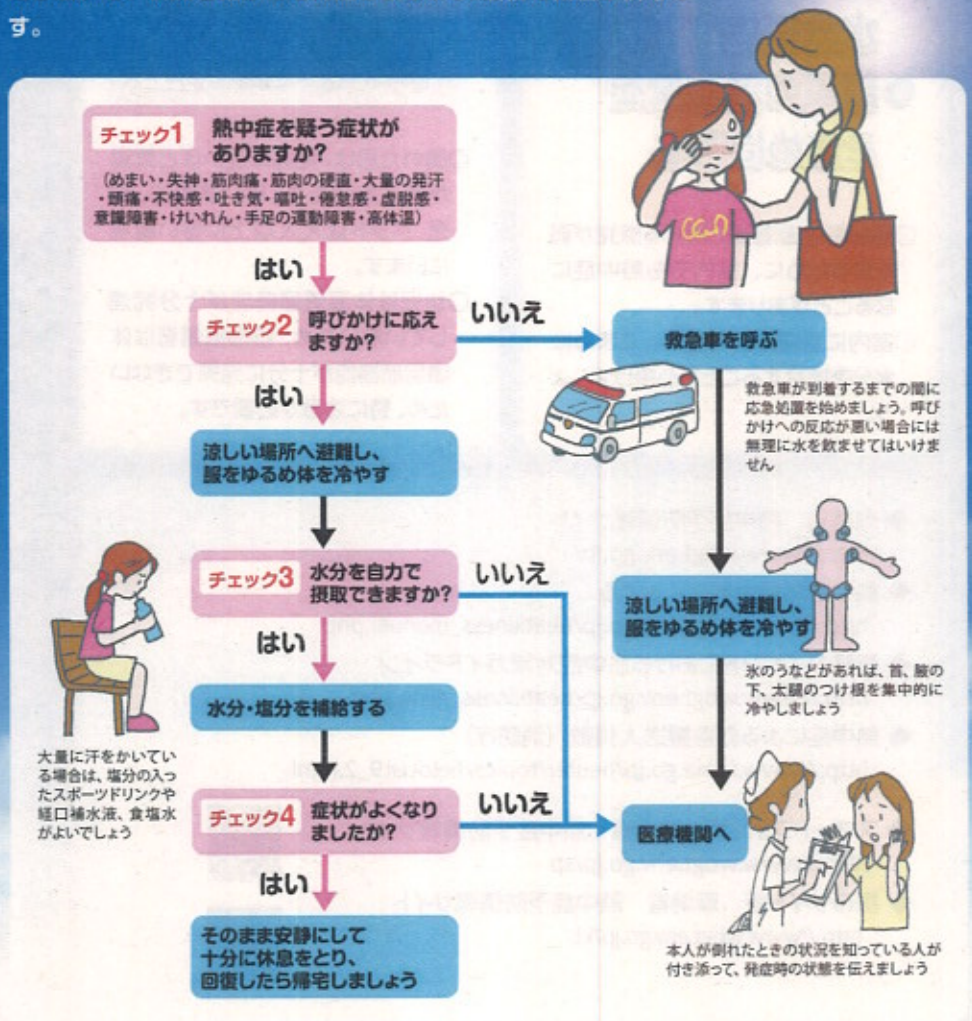
人間の体は暑い環境での運動や作業を始めてから3~4日経たないと、体温調節が上手になってきません。このため、急に暑くなった日や久しぶりに暑い環境で活動した時には、体温調節が上手くいかず、熱中症で倒れる人が多くなっています。

＊汗をかいた時には塩分の補給も忘れずに

熱中症になったときには

熱中症の応急処置

もし、あなたのまわりの人が熱中症になってしまったら……。
落ち着いて、状況を確かめて対処しましょう。最初の措置が肝心です。



環境省

熱中症 ～思い当たることはありませんか？～

熱中症の予防には、水分補給と暑さを避けることが大切です

こまめに水分を取っていますか？

✕のどの渇きを感じない
✕夜中にトイレに行くのが面倒だ

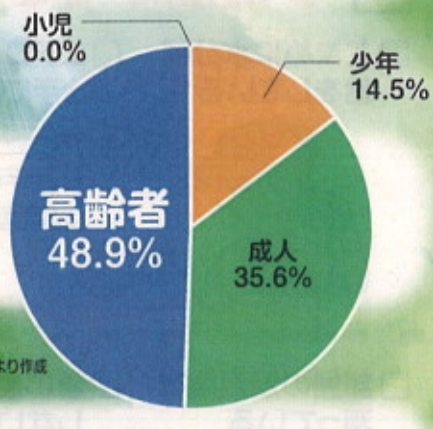
高齢者は、加齢によりのどの渇きに対する感覚が鈍くなります。このため、のどの渇きを感じなくてもこまめに水分補給をする必要があります。
また、体に必要な水分の補給を我慢することは、特に危険です。

エアコンを上手に使っていますか？

✕エアコンは体が冷えるから嫌だ
✕エアコン等が使えない

エアコンや扇風機は、温湿度設定に気を付けたり、体に直接あたらないよう風向きを調整するなど工夫をすると、体が冷えすぎず、快適に使うことができます。これらが使えない場合は、シャワーや冷たいタオルでも、体を冷やす効果があります。

熱中症患者のおよそ半数は高齢者（65歳以上）です



熱中症患者の年齢別割合
「消防庁／熱中症による救急搬送者の状況 2017年」より作成

暑さに強いから大丈夫？

✕暑さをあまり感じない
✕汗をあまりかかない

高齢者は、暑さに対する感覚が鈍くなり、発汗など体から熱を逃がす機能も低下します。暑い日は無理をしない、室内でも温湿度計を置き、部屋の温湿度が上がりすぎていないか確認するなど注意しましょう。

部屋の中なら大丈夫？

✕部屋の中では熱中症対策をしていない
✕夜は特に注意していない

熱中症は、室内や夜間でも多く発生しています。すだれやカーテンで直射日光を遮る、換気をして屋外の涼しい空気を入れる、必要に応じてエアコン等を使用するなど、部屋に熱がこもらないよう、常に心掛けましょう。

環境省

【高齢者は特に注意が必要です。】

①体内の水分が不足しがちです

高齢者は若年者よりも体内の水分量が少ない上、体の老廃物を排出する際にたくさんの尿を必要とします。

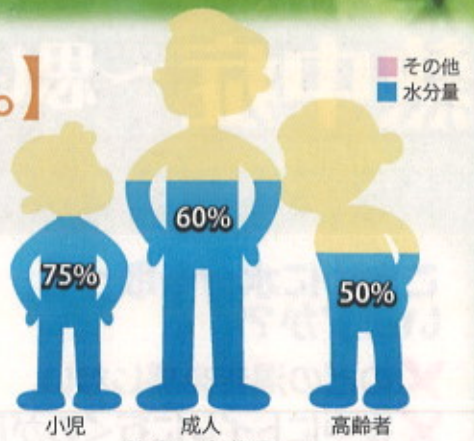
②暑さに対する感覚機能が低下しています

加齢により、暑さやのどの渇きに対する感覚が鈍くなります。

③暑さに対する体の調節機能が低下します

高齢者は体に熱がたまりやすく、暑い時には若年者よりも循環器系への負担が大きくなります。

※心臓や腎臓の悪い方や持病をお持ちの方は、かかりつけの医師にご相談下さい。



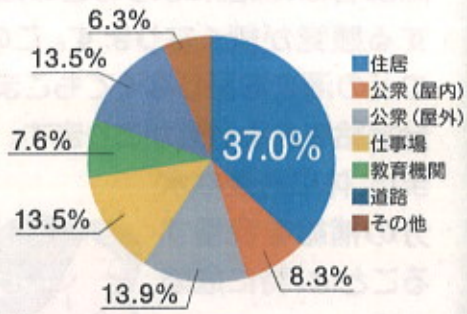
体内の水分量

「輸液・栄養ハンドブック」より作成

熱中症は、室内でも多く発生しています。夜も注意が必要です。

熱中症の発生場所（2017年）

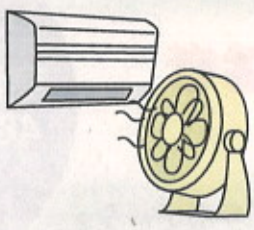
「消防庁／熱中症による救急搬送者の状況 2017年」より作成



予防法ができているかをチェックしましょう。

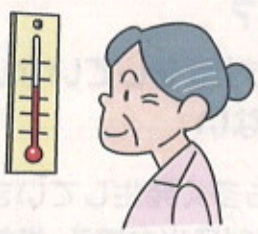
□こまめに水分補給をしている

□エアコン・扇風機を上手に使用している



□シャワーやタオルで体を冷やす

□部屋の温湿度を測っている



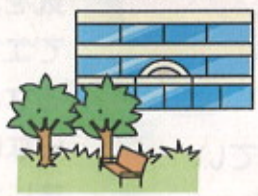
□暑い時は無理をしない

□涼しい服装をしている 外出時には日傘、帽子

□部屋の風通しを良くしている

□緊急時・困った時の連絡先を確認している

□涼しい場所・施設を利用する

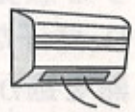


予防法メモ

▶寝る前だからと水分を我慢せず、こまめな水分補給を心掛けましょう。汗をかいた時は、適度な塩分補給も必要です。

▶暑さを感じなくても、部屋の見やすい場所に温湿度計を置き、温度が上がったらエアコンをつけるなど、常に注意しましょう。

▶エアコンや扇風機が苦手な人は、温湿度設定に気を付けたり、風向きを調節するなど工夫してみましょう。調節の仕方が分からない人は、身近な人に相談しましょう。



メモ欄

環境省熱中症情報に関するホームページ
http://www.wbgt.env.go.jp/

環境省環境保健部 環境安全課
〒100-8975 東京都千代田区霞が関1-2-2 中央合同庁舎5号館
TEL:03-3581-3351（代表）

リサイクル適性Ⓐ
この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。